

武漢事務所便り週間新聞記事報告 2010.06.5-2010.06.11

2010年6月9日付け「長江ネット」

2010年武漢国際省エネ環境保全展覧会が開幕

6月9日、「2010年武漢国際省エネ環境保全展覧会」が武漢で開催され、多くの家庭用の省エネ製品が展示され、どれも身近な商品ばかりで、市民の注目を集めた。今回の展覧会は、湖北省人民代表大会環境資源委員会、湖北省発展改革委員会、湖北省経済信用委員会、湖北省環境保全庁、湖北省機関事業管理局、湖北省貿易促進会など多数の行政機関及び団体が共催した。

新型建築材料が注目

「既製のガラス壁材の場合、1平方メートル当たりの赤外線吸収率は133ワットで、中空銀幕新型ガラス壁材の場合、1平方メートル当たりはわずか18ワットにも満たない。新型ガラス壁を使用すると一年間で60%以上の電気料金が節約できる。」と東莞のガラス企業は展覧会で記者に自社の省エネのガラス壁をアピールした。

現在、武漢の企業はまだこのような製品を取り扱っていないが、天河空港、琴台大劇院、保利ビルなどの大型プロジェクトは既にこの建築用の省エネ技術を導入している。新技術のコストについて、スタッフの説明によると、1平方メートル当たりの費用は一般ガラスより100元(=1,300円、1元=13円で計算)ほど高いが、電気料金が安くなるため、3年から5年以内にコストを回収できるとのこと。

自動ブラインド、外壁保温材料、IT遮蔽技術、塗料、床暖房など建築省エネ製品は、今回の展覧会の主力展示品となっている。武漢市建築省エネ弁公室の関係者によると、「武漢市は環境にやさしい建築モデルプロジェクトを推進し、現在建築省エネ産業は50億元(650億円)の生産高に上り、年々25%の増加率を保っている」。

商品はますます市民生活向けに

今回展覧会に参加した政府関係者の話によると、「企業開発したハイレベルの科学技術省エネ製品はだんだん市民生活向けになり、専門性も高くなっている。市民も専門家も満足ができる新しい環境保全理念、技術、製品は、必ずみんなに便利を提供する」。

今回の展覧会は6月11日まで、市民は無料で入場できる。

2010年6月10日付け「長江ネット」

スタンダードチャータード銀行が武漢支店を設立決定

6月10日午後、湖北省委員会副書記、武漢市委員会書記楊松氏は武漢を訪れたスタンダードチャータード銀行(中国)有限公司のCEO兼董事会の常務副主席林清徳一行と会見した。林清徳氏の話によると、スタンダードチャータード銀行が武漢支店の設立を決定し、江漢、武昌などの区に営業所も設置する予定である。関係登録手続きは現在申請中。

スタンダードチャータード銀行の本部はロンドンのイギリス銀行であり、1853年に設立された。その業務範囲は主にアジア、アフリカ、中東及びラテンアメリカなど新興国に集中しており、70の国と地域に分布し、合わせて1700以上の支店がある。スタンダチャータード銀行は中国国内に16支店、さらに所属営業所は38、代表事務所1カ所と農村銀行1行がある。また寧波支店とフホト支店の設立許可も得た。スタンダードチャータード銀行の主な業務は担保、投資サービス、クレジットカード及び個人ローンなど個人銀行サービス、現金管理、貿易融資、資金及び信託サービスなどの商業銀行のサービスを含む。

楊松氏は会見の時、武漢市の近年の経済発展及び都市計画建設状況を紹介し、特に立地、交通、科学教育、人材、産業基礎、市場影響力などの分野における独特の優越性を強調した。また、武漢市は国務院が定めた中部地域の中心都市であり、すばらしい成長性がある。武漢に進出する海外の企業には行政より優遇制度と最高のサービスを提供すると表明した。

武漢市はスタンダードチャータード銀行の重要な戦略市場として、今後、武漢支店を基軸に投資力を徐々高めていくと林清徳氏が語った。